

JS-770

使用の手引き

- ★ ご使用前にこの『使用の手引き』を十分お読み下さい。
- ★ この『使用の手引き』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。

◎ご使用前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。

◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

絵表示について

この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用できるように、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。



警告：取り扱いを誤った場合、人が死亡又は重傷を負う危険が生じる事が想定される内容を示しています。



注意：取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。

絵表示の例



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。



記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

警告

感電、火災の恐れがあります



禁止

このミシンは国内専用です。
一般家庭用交流電源 100 V 以外の電圧では使用しないでください。
異なる電圧で使用すると火災・感電の原因となります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電やけがの原因になります。



プラグを抜く

以下のような時は電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。プラグを差し込んだままにしておくと、思わぬ火災や感電の原因となることがあります。

- ミシンのそばを離れる時
- ミシンを使用しない時
- ミシンのお手入れをする時
- ミシンを移動させる時
- ミシン使用中に停電した時



プラグを抜く

コンセントから抜く時は、コードを持たずに必ずプラグを手で持って抜いてください。
コードを引っ張ると内部で断線し、感電や発火につながる恐れがありますので大変危険です。



禁止

電源コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、何かに巻きつけたりしないでください。
また、コードが重いものの下敷きにならないようにしてください。
コードが内部で断線したり破損して、火災・感電の原因になります。



水ぬれ禁止

ミシン、電源コード、電源プラグ等を水につけたり濡らしたりしないでください。
また、浴室や加湿器のそばなど水がかかるような場所や湿気の多い場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となりますので、万一濡れた場合は絶対に使用しないでください。



分解禁止

お客様自身での修理、分解、改造はしないでください。
火災・感電・けがの原因になります。
修理が必要な場合は、お買い上げの販売店か販売元までご相談ください。



警告

感電、火災の恐れがあります



禁止

ミシンの内部に金属類や燃えやすいものなどの異物や水分を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

火災・感電の原因となりますので、特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



禁止

ミシンの上に乗らないでください。
倒れたりこわれたりしてけがの原因となることがありますので、特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。



禁止

ミシンを極端に傾けたり、前後左右に激しく動かさないでください。

感電や故障の原因になります。



禁止

ほこりの多いところで使用しないでください。
電源プラグの刃や刃の取付面にほこりが付いている時は、乾いた布でふき取ってください。
そのまま差し込むと火災の原因になります。



禁止

ミシンをぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。

また、毛布やクッションなどの柔らかいものの上にも置かないでください。

落ちたり倒れたりして、けがや火災の原因になります。



注意

ミシンを操作中にネクタイ・ネックレス・髪などを針周辺に引き込まれないようにしてください。
万一引き込まれてしまった場合は、ただちに電源を切って取り除いてください。



禁止

ミシンの通風孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁止

雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。
感電の原因になります。

注意

感電、火災、けがの原因となります



禁止

ミシンには正規の部品（ボビン・針等）をご使用下さい。



注意

ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの大容量の電気製品のご使用はお控えください。ミシンの動作が不正確になる場合があります。



注意

最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始めてください。



注意

お子様がご使用になる時やお子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。



注意

ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。



禁止

以下のことをする時は、電源スイッチを切ってください。
・針を交換する時
・上糸、下糸をセットする時



禁止

曲がった針はご使用にならないでください。



禁止

ミシンを動かす時は、かまカバーを閉じてください。



禁止

縫う時は布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。



注意

業務用としてのご使用はお控えください。過負荷による故障の原因になります。

⚠ 注意

感電、火災、けがの原因となります



禁止

お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。

変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。



注意

最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。



禁止

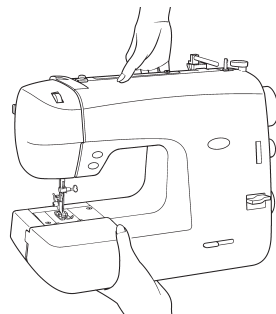
ミシンに以下の異常がある時はすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。

- 正常に作動しない時
- 水にぬれた時
- 落下などにより破損した時
- 電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなった時
- 異常な音やにおいがする時

⚠ 注意

ミシンを移動するときの注意

ミシンを移動するときは、図の様に両手で持って下さい。



安全装置について

● 自動停止装置（糸切れお知らせランプが点滅します）



- 1 このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- 2 たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んでミシンが動かなくなったようなとき、安全装置がそれを感じ、糸切れお知らせランプが点滅して3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- 3 モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。
* この時必ず電源スイッチを切ってください。
- 4 次に、プーリーを手前に回してみてもミシンが動くようになったかを確認した上で、再度電源スイッチを入れスタートスイッチを押してください。

● その他の安全装置

- 1 このミシンにはモーターの加熱を防ぐため温度ヒューズが付いています。
長時間低速でミシンを使用すると、ミシンが停止することがあります。
ミシンが停止した場合は、ミシンの電源を切り、しばらく休ませた後、再度電源を入れてご使用ください。
- 2 更に15分間連続運転すると自動的に停止する機能が付いています。この場合は、モーターの加熱による停止ではありませんので、スタートスイッチを押すと運転が再開されます。

1 ご使用になる前に

各部の名前-----	8
各部のはたらき-----	9 ~ 10
電源のつなぎ方-----	11
補助テーブル（付属品入れ）-----	12
フリーアーム（筒縫い）-----	13
大型補助テーブルの使い方-----	13
ボビンケースとボビンの取り出し方-----	14
糸ごまのセットのしかた-----	14
下糸の巻き方-----	15
ボビンケースへの糸の通し方-----	16
ボビンケースの取り付け方-----	16
上糸のかけ方-----	17
自動糸通し器の使い方-----	18
下糸の引き上げ方-----	19

2 さあ縫ってみましょう

ミシンのセットのしかた-----	20
直線縫い-----	21 ~ 26
縫い方向の変え方-----	23
返し縫い-----	24
縫いにくい布地の縫い方	
薄物・厚物・段縫い-----	24
上糸調子の取り方・下糸調子の取り方-----	25
針と糸と布地-----	26
針の取りかえ方-----	26
ジグザグ縫い-----	27
サテンステッチ（密着縫い）-----	27

かくし縫い（ブラインドステッチ）-----	28
点線ジグザグ縫い	
裁ち目かがり・つくろい縫い-----	29
シェル縫い-----	29
つき合せ縫い・ランジェリー縫い・ファゴット縫い-----	30
スーパー縫い（ストレッチステッチ）-----	31 ~ 33
直線伸縮縫い・ジグザグ伸縮縫い・オーバーロック縫い	
スモッキング縫い・ダブルオーバーロック縫い	
オーバーエッジ縫い・アローヘッド縫い	
飾り縫い-----	34
ボタンホール（ボタン穴かがり）-----	35 ~ 36
押えの取りかえ方-----	37

3 ミシンのお手入れ

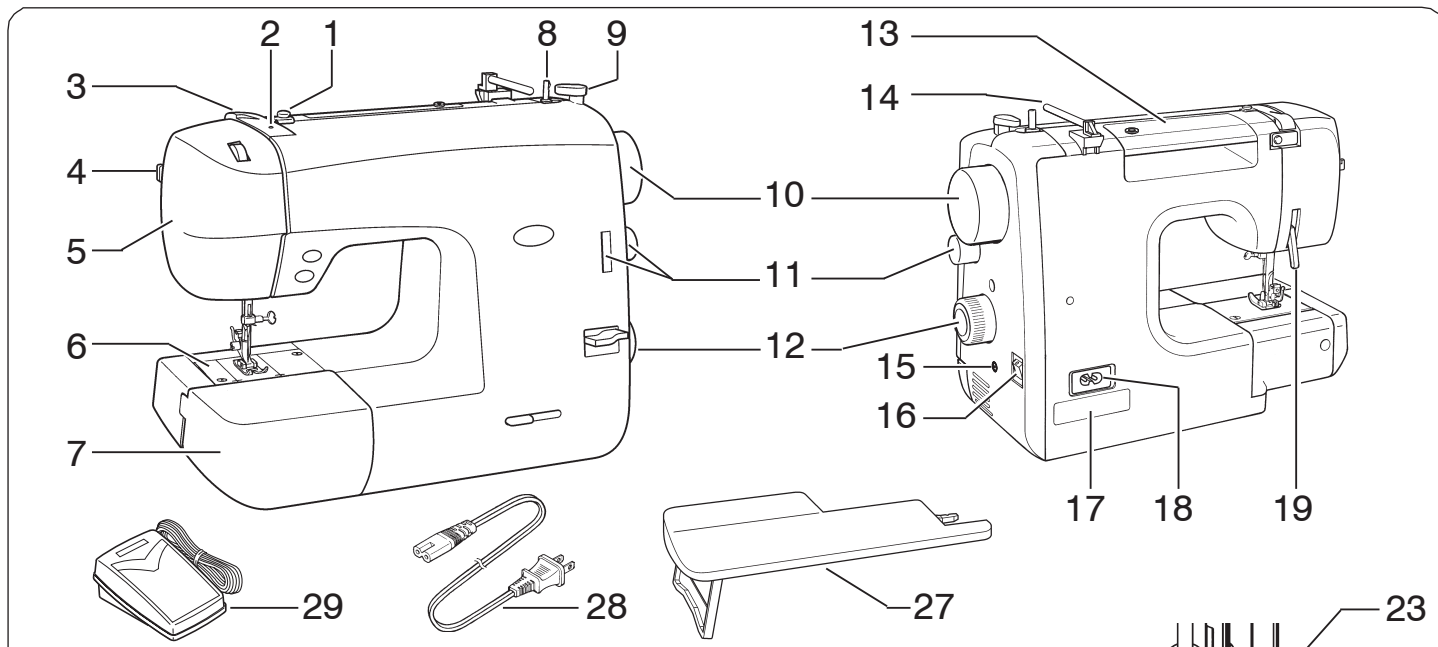
かまの掃除-----	38
送り歯の掃除・電球の取りかえ-----	39

4 故障かな…と思ったら ----- 40 ~ 42

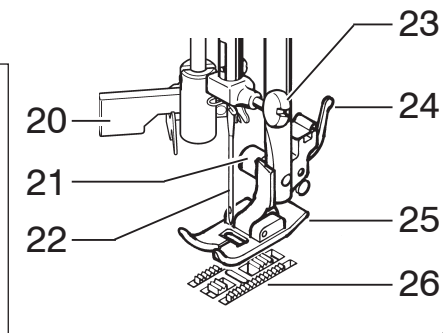
ミシンの仕様

本体寸法：巾35.2×奥行15.5×高さ25.5（cm）
本体重量：6.7kg
定格電圧：100V AC
定格消費電力：70W（ライト15W）
定格周波数：50/60Hz

各部の名前



- | | | | |
|----------------------|---------------------------|-----------------|---------------|
| 1. 下糸巻き案内 | 8. 下糸巻き軸 | 15. コントローラージャック | 23. 針止めネジ |
| 2. 糸切れお知らせランプ | 9. 下糸巻き押え | 16. 電源スイッチ | 24. 押え解放レバー |
| 3. 糸道力バー | 10. プーリー | 17. 機番プレート | 25. 押え |
| 4. 糸切り | 11. 縫い目長さ・スー
パー切換えダイヤル | 18. コンセント | 26. 送り歯 |
| 5. 面 板 | 12. 模様選択ダイヤル | 19. 押え上げ | 27. 大型補助テーブル |
| 6. 針 板 | 20. 糸通しレバー | 28. 電源コード | 29. フットコントローラ |
| 7. 補助テーブル
(付属品入れ) | 13. ハンドル | 21. 押え止めネジ | |
| | 14. 糸立て棒 | 22. 針 | |



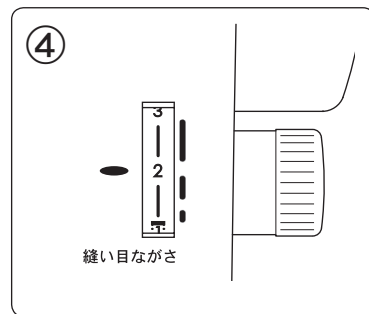
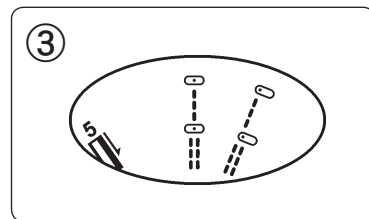
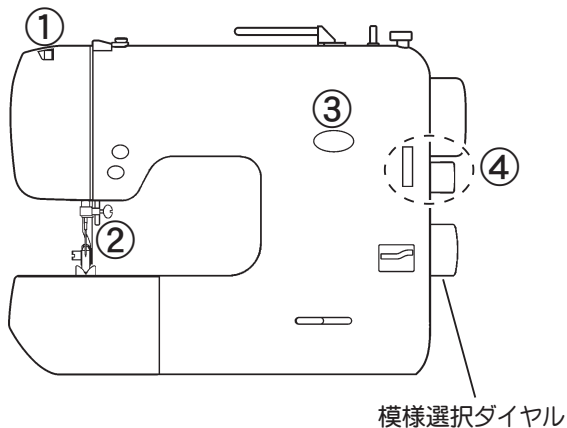
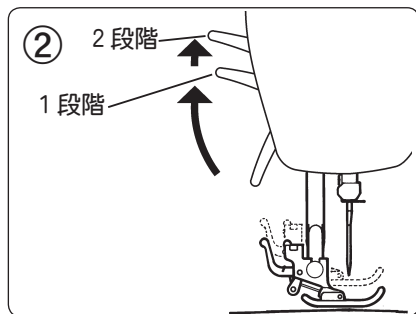
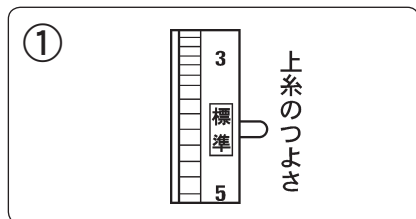
1

2

3

4

各部のはたらき



① 上糸調子ダイヤル

ダイヤルを回して上糸の調子を調節します。数字が大きくなるほど、上糸調子は強くなります。

※通常は標準の位置が適当です。



② 押え上げ

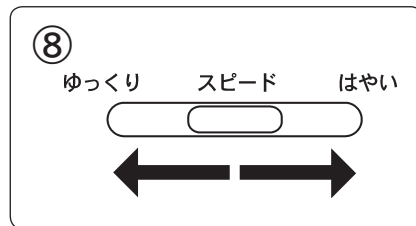
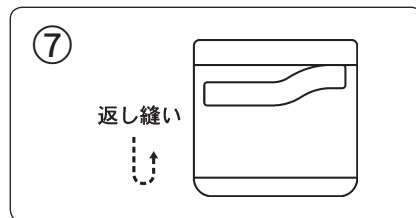
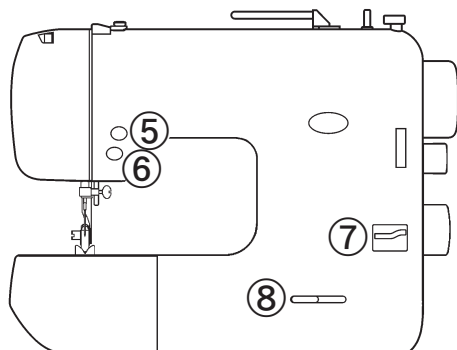
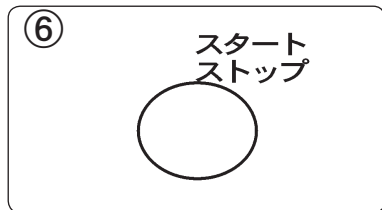
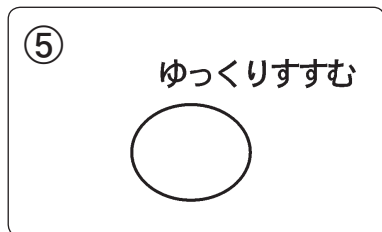
押え上げは2段階です。2段階目に上げる時は、押え上げを手で支えながら、さらに持ち上げます。

③ 縫い模様表示

模様は窓に表示されるので、選択ダイヤルを回すだけで希望の模様が選択できます。

④ 縫い目長さ・スーパー切換えダイヤル

- ダイヤルを回して縫い目長さを調節します。縫い目は数字が大きくなれば長くなります。
- 「」マークは、ボタンホールのセット位置です。
- スーパー模様を縫うときは  印に合わせます。
- ⑤ 縫い目長さダイヤルを途中の青い矢印線に合わせて縫うとバック縫いになります。



⑤ ゆっくりすすむスイッチ (最低速縫い・停止スイッチ)

スイッチを押している間だけ、最低速でミシンは動きます。ミシンが動いているときにこのスイッチを押すと、瞬時に速度が落ちゆっくり縫い始めます。スイッチから手をはなすとミシンは停止します。

⑥ スタート/ストップスイッチ

上糸をかけて電源スイッチを「ON」にした後、このスイッチを押すとミシンが動き出します。もう一度押すと、針は常に上上がった位置で止まります。

④注 連続してスイッチを押すとミシンは回りません。

⑦ 返し縫いレバー

レバーを下に押し下げている間、返し縫いができます。

⑧ スピードコントロール

このミシンには電子回路が内蔵されており、自由に速度調整が可能です。つまみを右に動かすとスピードが早くなり、左に動かすとスピードが遅くなります。

④注 フットコントローラーを使用する場合スピードコントロールの設定位置がフットコントローラーの最高速度になります。

電源のつなぎ方

電源スイッチを「OFF」にしてください。

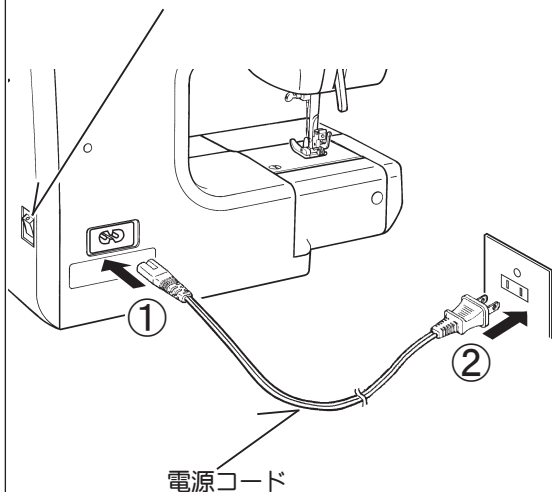


ミシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

◆フットコントローラーを使用しない場合

電源コードのプラグを①、②の順にさしこみます。

電源スイッチを「OFF」にセット

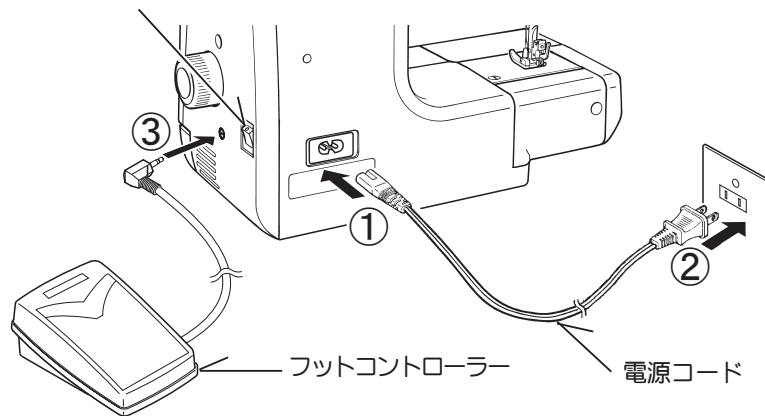


電源スイッチを押して電源を入れます。
(照明ランプも同時につきます。)

◆フットコントローラーを使用する場合

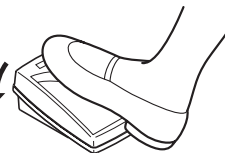
電源コードのプラグを①、②の順にさしこみます。
フットコントローラーのピン③をミシンのジャックにさしこみます。

電源スイッチを「OFF」にセット

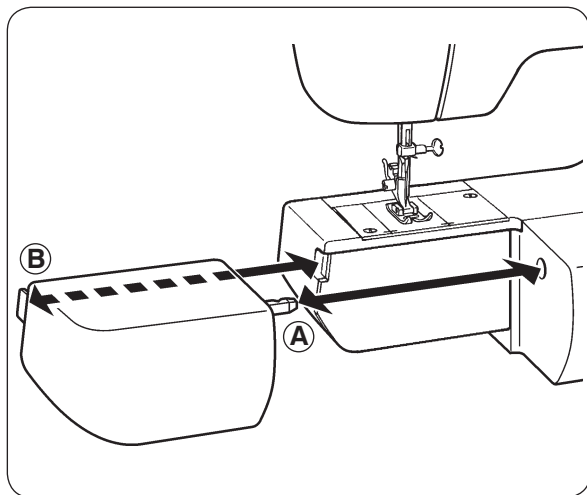


電源スイッチを押して電源を入れます。(照明ランプも同時につきます。)

フットコントローラーを深く踏むと
ミシンの回転は速くなります。
最初は軽く踏んでゆるい速度で縫い
始めてください。

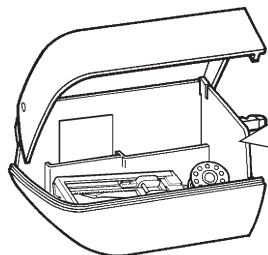


補助テーブル（付属品入れ）

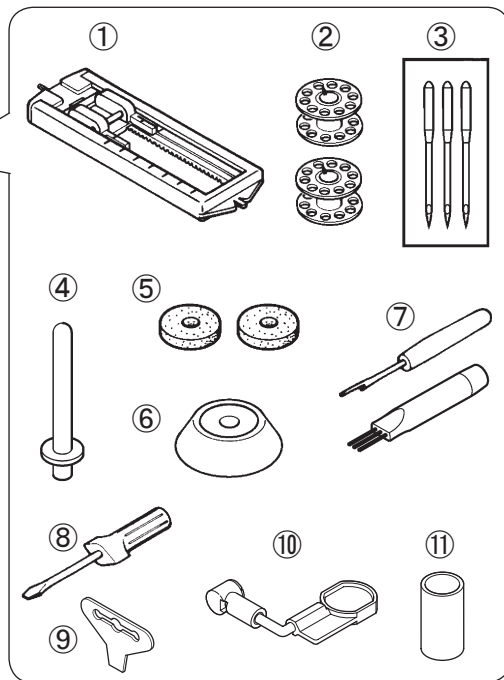
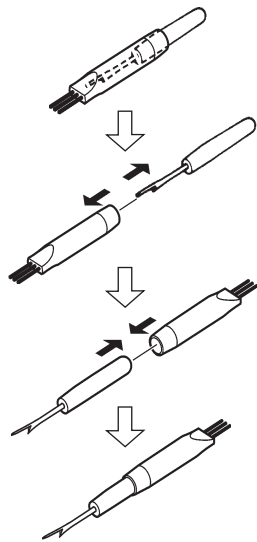


左へ引っばるとはずれます。
元にもどす時は、テーブルをミシンに沿って右にすべ
らせながら、**A** **B**を所定の位置に差し込みます。

ふたを開けると付属品が入っています。
糸ごま押えを取り出しておきます。

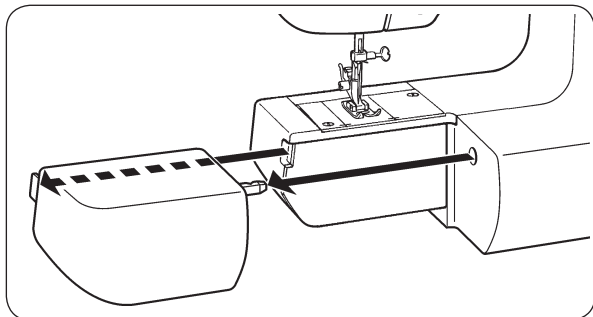


ブラシ付きシームリッパー

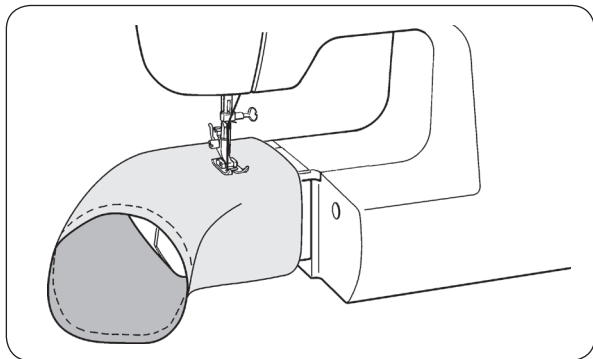


- ① ボタンホール押え
- ② ボビン
- ③ ミシン針 (#14 × 3本)
- ④ 糸立て棒
- ⑤ 糸立て座
- ⑥ 糸ごま押え
- ⑦ ブラシ付きシームリッパー
- ⑧ ネジ回し
- ⑨ 針板用ネジ回し
- ⑩ 糸通し用レンズ
- ⑪ 電球取り外し用チューブ

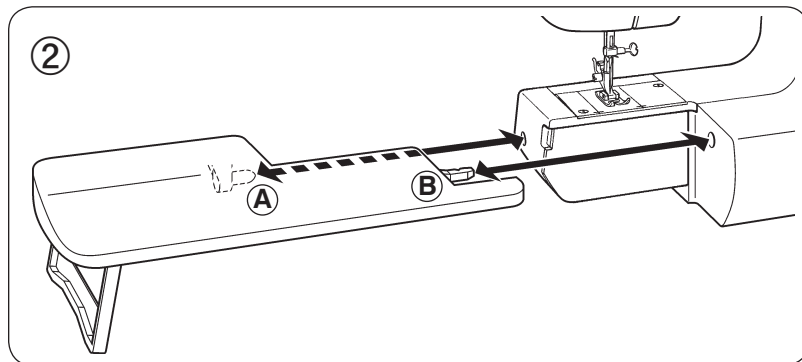
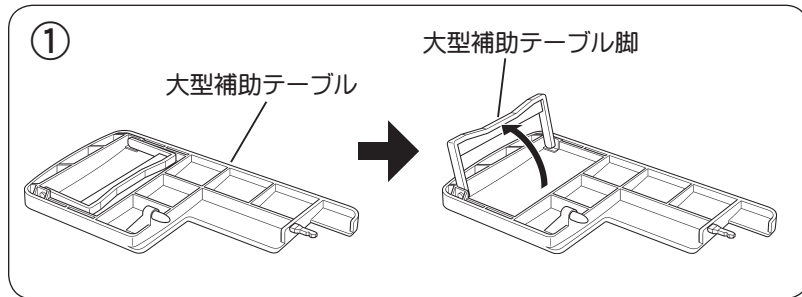
フリーアーム（筒縫い）



補助テーブルをはずして、フリーアームにします。
フリーアームに筒型になった部分を入れて縫います。
袖つけ、袖口の始末、カフスつけ、衿つけ、ズボンの裾口の始末に便利です。



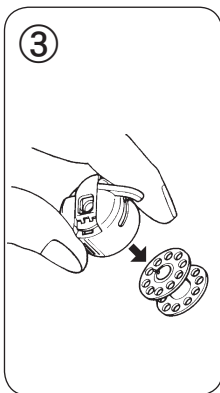
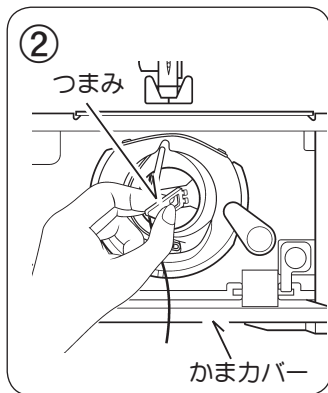
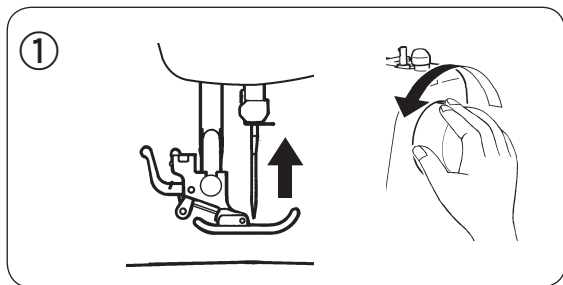
大型補助テーブルの使い方



- ① 大型補助テーブル脚を矢印の方向に立て、ミシンにセットします。
- ② 大型補助テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、案内ピン（A）（B）を所定の位置に差し込みます。

大型補助テーブルを左に引っぱって外すとフリーアーム型になります。

ボビンケースとボビンの取り出し方

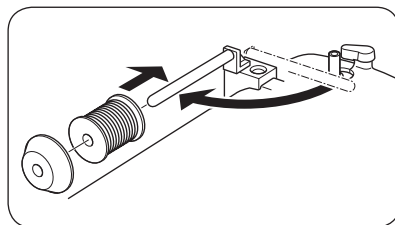


- ① プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。
- ② かまカバーを開いて、ボビンケースのつまみを持ってボビンケースを取り出します。
- ③ ボビンケースにボビンが入っているときは、つまみを閉じるとボビンが取り出せます。

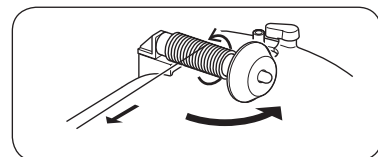
糸ごまのセットのしかた

※よこ式糸立て棒

糸立て棒を図のように回転させ、糸ごまと糸ごま押えをセットします。



細い糸ごまの場合、図のようにセットします。

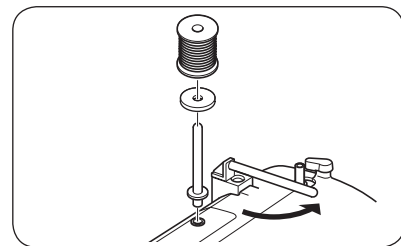


① 糸ごまが回転するか確認してください。

※たて式糸立て棒

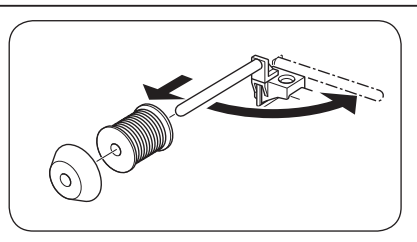
糸立て棒を図のように差込み、糸立て座と糸ごまをセットします。

① よこ式糸立て棒は元の位置に戻しておきます。



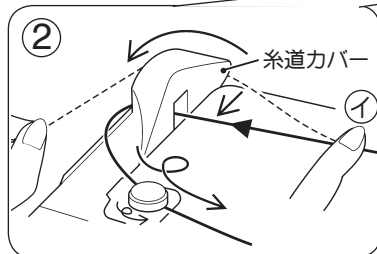
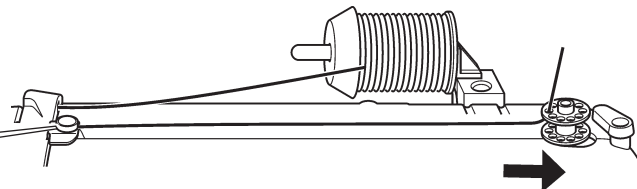
ミシンをキャリングケースに収納するときの注意

① キャリングケースにミシンを収納する前に糸ごまと糸ごま押えをはずし、よこ式糸立て棒を元の位置に戻します。

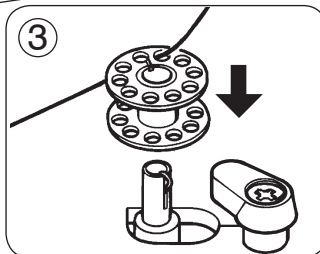


下糸の巻き方

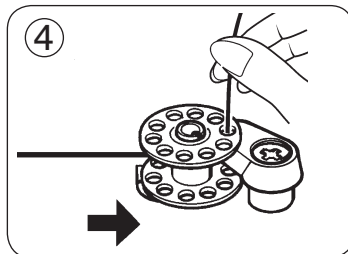
- ①糸ごまをセットします。
 セットのしかたは14ページを参照ください。



- ②糸①を押えながら、糸道カバーに糸をかけ、下糸巻き案内に一回転巻きつけ糸ごまから糸を引きます。



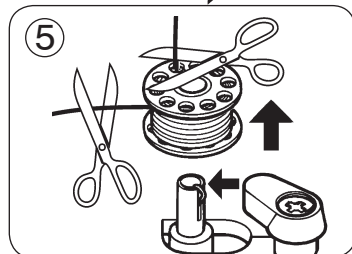
- ③ボビンの穴に糸を通し、ボビンを下糸巻き軸にはめこみます。



- ④糸の端を持ち、ボビンをカチツと音がするまで右に押しします。スピードコントロールつまみでスピードを調整し、スタート/ストップスイッチを押して糸を巻きます。

*糸を巻いている間は針は動きません。

ボビンが数回転したら、糸を離してください。



- ⑤下糸が一杯になって、ボビンの回転が止まったら、すぐにスタート/ストップスイッチを押してミシンを止めます。下糸巻き軸を左にもどして、ボビンを外し、糸の端を切ってください。

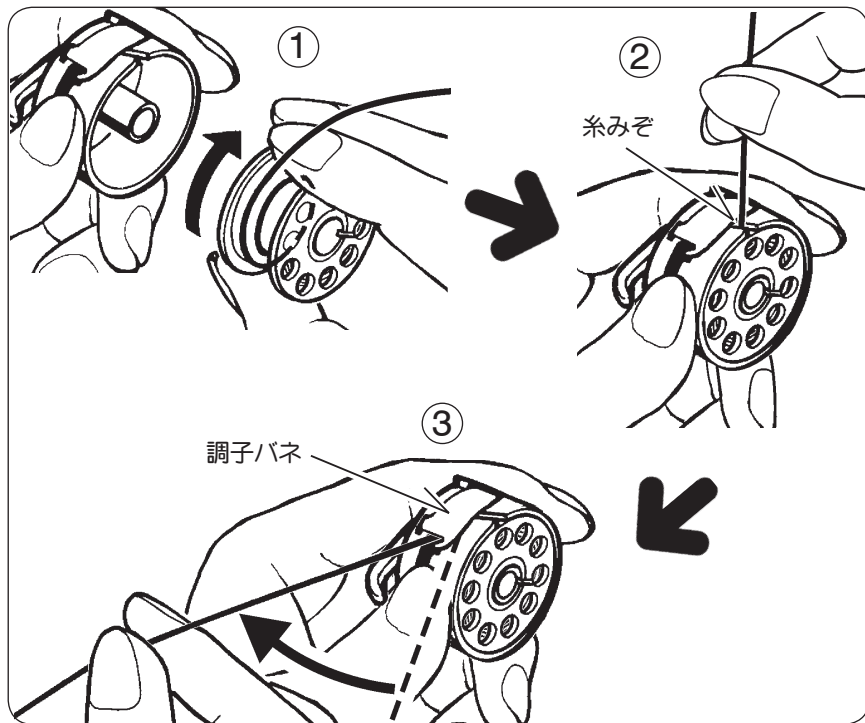
⑨下糸巻き案内に糸がきちんとかけられていないと、図のように正しく巻けません。



下糸巻き時の注意事項

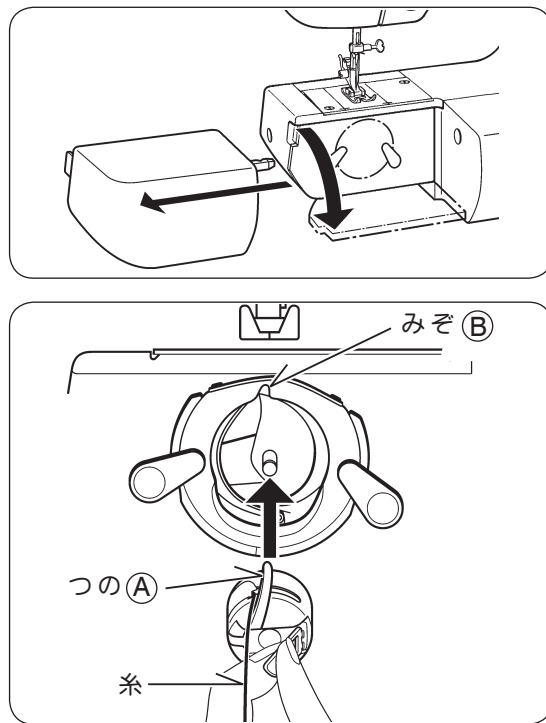
ミシンを止めると、針は常に上設定で止まります。その状態で「下糸巻き」が出来ます。スタート/ストップスイッチを押しても、お知らせランプが点滅して、下糸巻きが回転しないときは、再度スイッチを押すと、下糸巻きが回転します。ミシンの機能には問題ありません。

ボビンケースへの糸の通し方



- ① 糸が右回りになるようにボビンをつかんでボビンケースに入れます。
- ② 糸をボビンケースの糸みぞに入れます。
- ③ 糸みぞから調子バネの下へ「カチッ」と音がするまですべり込ませます。
10cmぐらい糸を引き出しておきます。

ボビンケースの取り付け方



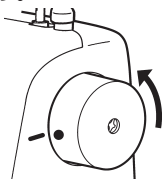
- 針を最上点に上げます。
- つもの(A)を真上にして、つまみを持ち、つもの(A)をかまのみぞ(B)にきちんとはめてセットしてください。
- ④ (A)と(B)がずれていたり、しっかりと差し込んでいない場合は、ボビンケースが始動とともに、とび出してしまいます。

上糸のかけ方

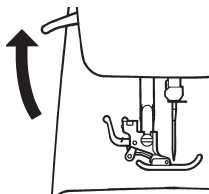
●まず上糸をかける前に行なってください。

- a. プーリーを手前に回して、プーリーのマークとカバーのマークを合わせます。

* このとき針は上方に位置します。



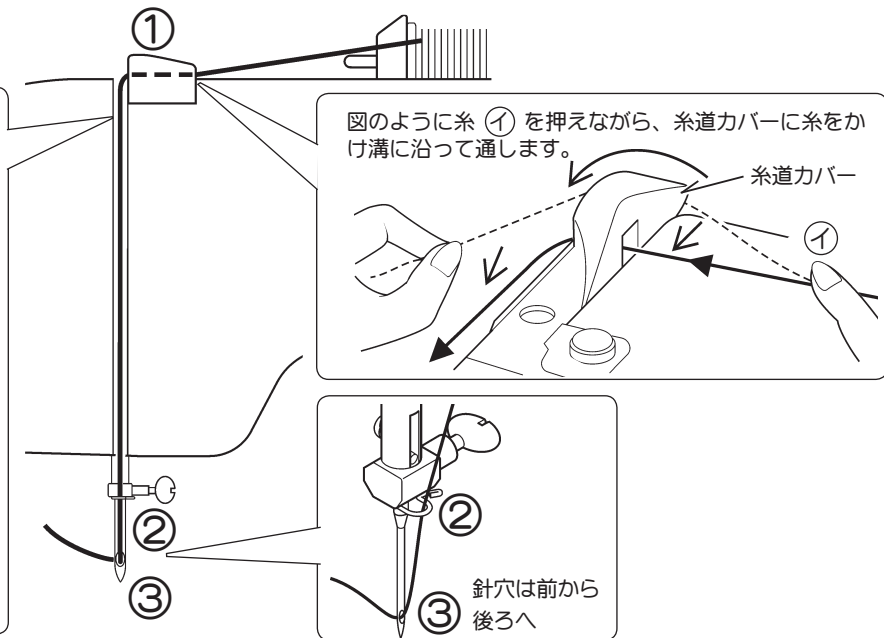
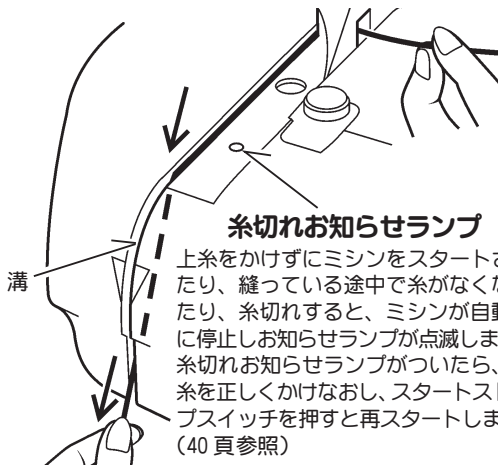
- b. 必ず押え上げを上げます。



- c. 糸ごまをセットします。
セットのしかたは14ページを参照ください。

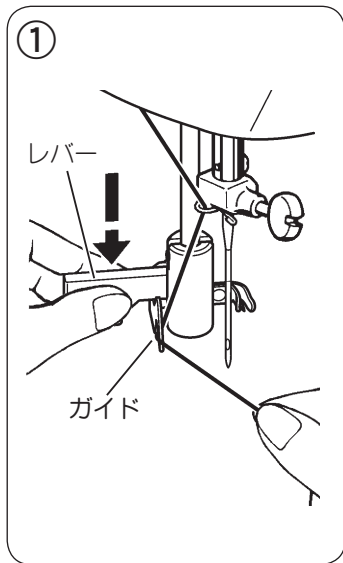
●図の番号順に糸をかけます。

右手で糸を保持しながら、糸道カバーに入った糸をさらに溝にそって下へ引っぱり下ろします。

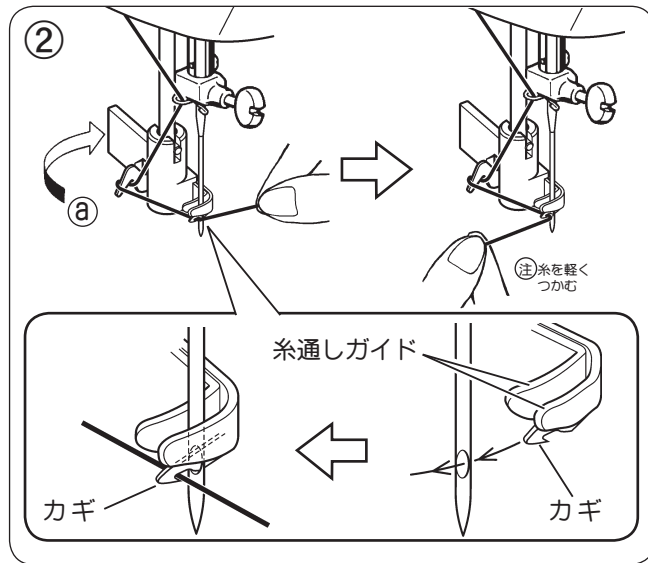


自動糸通し器の使い方

押え上げを下げます。プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

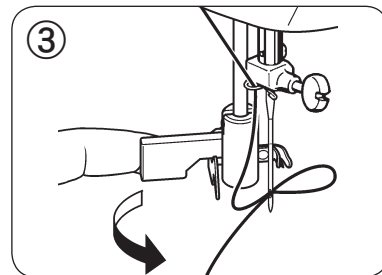


①糸をガイドにかけ、レバーをまっすぐ下げます。

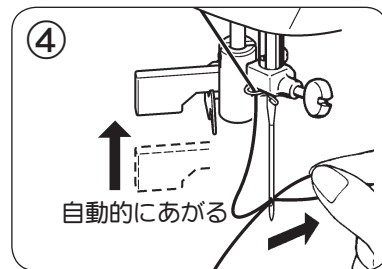


② 1. レバーを矢印 ② の方向に回転させると、糸通しガイドが時計方向に回転し、カギが針穴に通ります。
2. 糸をカギに引っかけます。
3. 糸の端を手前上方に持ってきて軽く持ちます。

③ 針最上点でないと、レバーは回転しません。



③レバーを手前に押し、糸が針穴に輪になって通ります。



④輪になった糸を向う側に引き出してください。

④ 注 ● 太い糸を使うと糸通しができません。

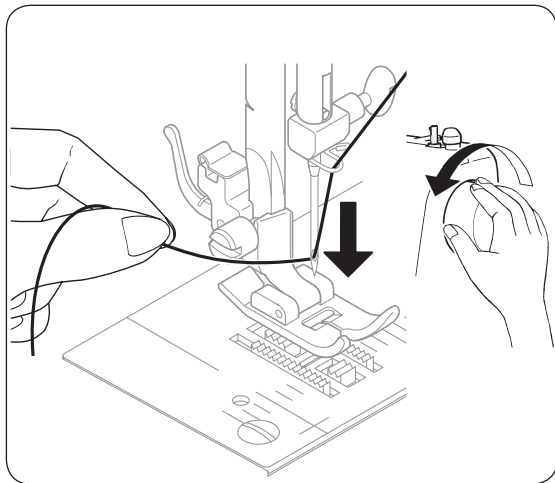
● 細い針は糸通しができません。

● 糸通しカギは針穴に入るように調整しておりますが、ちょっとした使用上の誤りから、カギが針穴に入らず糸が通らない場合はカギが曲がっています。小さなドライバー等でカギを曲げて調整してください。

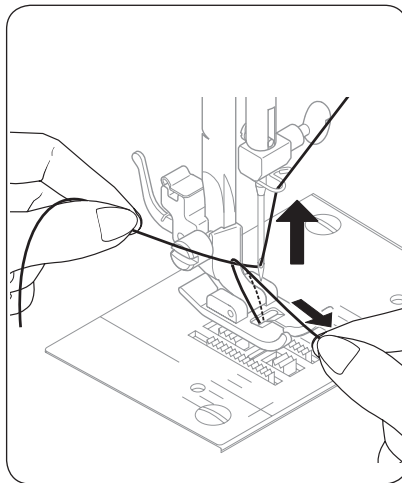


ミシンが動いているときに糸通しレバーを下げる
と、故障の原因になりますのでご注意ください。

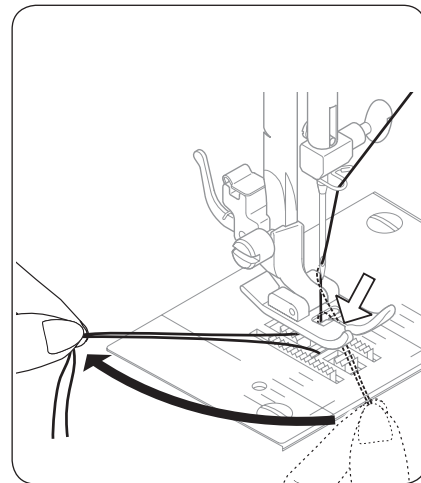
下糸の引き上げ方



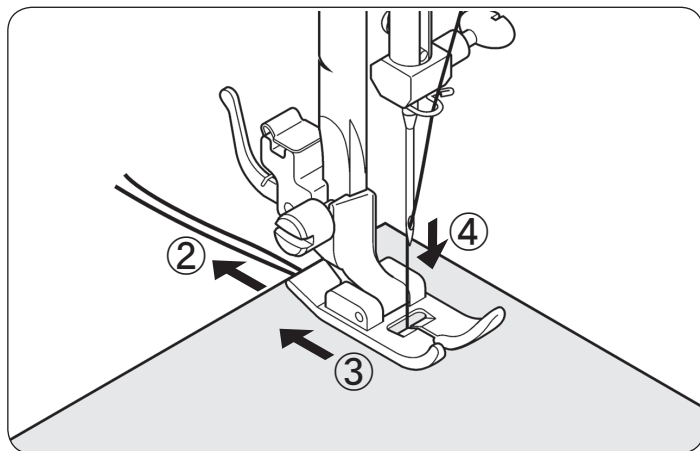
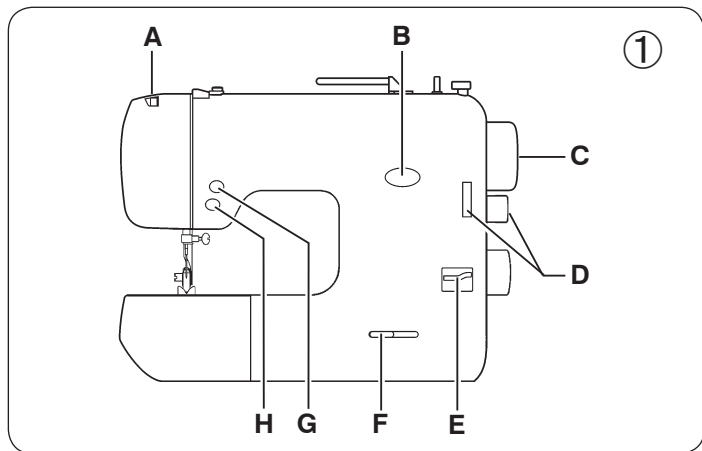
① 押え上げを上げてください。針糸をゆったりと左手で持ち、プリーを手前に完全に一回転させてください。



② 左手の上糸を軽く引っ張り上げると、下糸がついてあがります。下糸を右手で手前に引き出してください。




③ 両糸をそろえてみぞ(矢印)に入れ、押え金の下を通して後ろへ引き、糸を10cmほど残しておいてください。

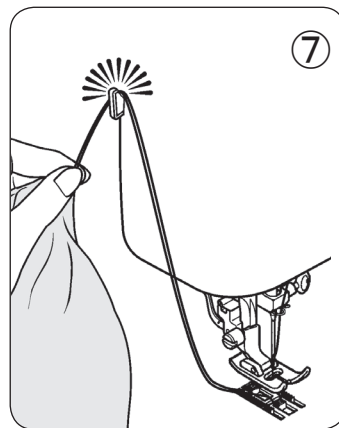
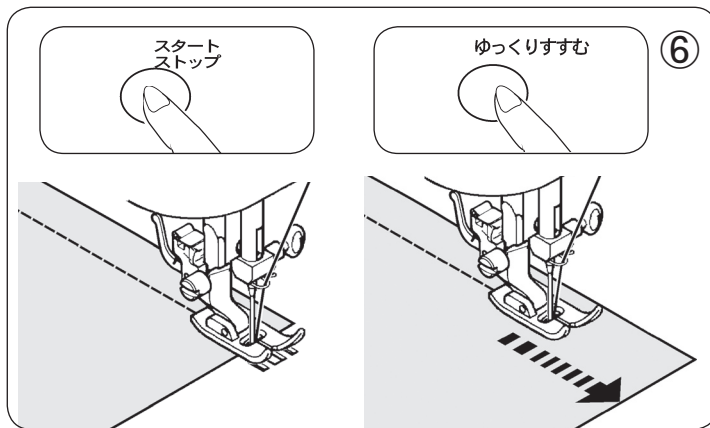
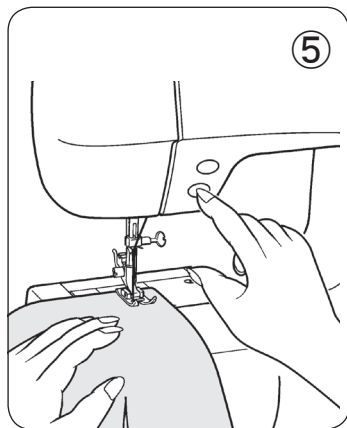


●直線縫いはミシン縫いの基本ですので、試し縫いをして正しい使い方をよく覚えましょう。

- | | |
|--------------------------|------------------|
| A. 上糸調子ダイヤル | E. 返し縫いレバー |
| B. 縫い模様表示 | F. スピードコントロール |
| C. プーリー | G. ゆっくりすすむスイッチ |
| D. 縫い目長さ・スーパー
切換えダイヤル | H. スタート/ストップスイッチ |

- ①ミシンをセットしましょう。
 プーリーを手前に回して、針をいちばん上まで上げます。
 縫い模様「」
 縫い目長さ「1~4」
 上糸調子ダイヤル「標準」

- ②上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。
- ③布を押えの下に入れ、押えを下げます。
- ④プーリーを手前に回して、針を布に突き刺します。



⑤ スタート/ストップスイッチを押して縫い始めます。「はやい」スピードをお望みの場合は、スピードコントロールのつまみを右に動かしてください。縫っている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く布を導いてください。

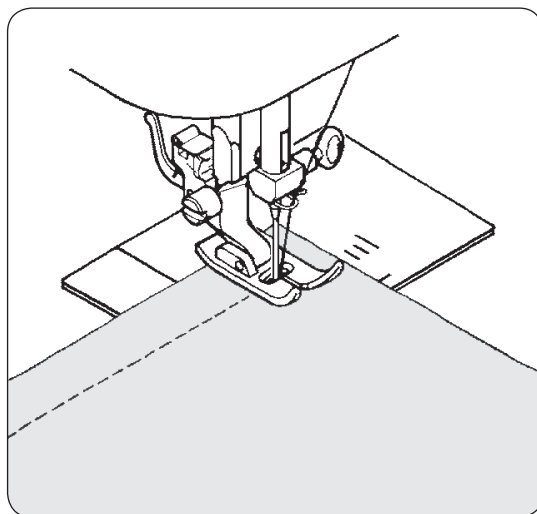
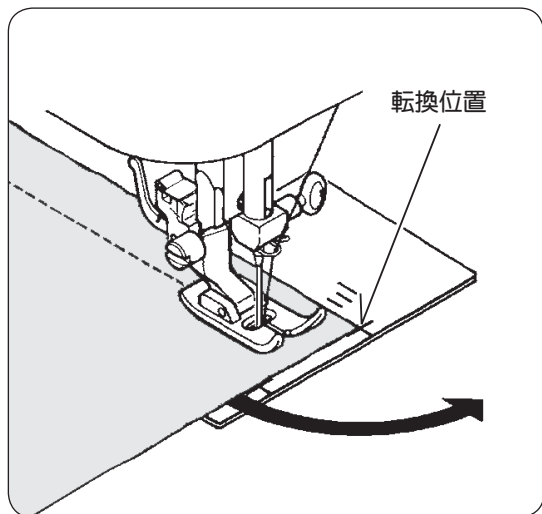
⑥ ミシンの止めかた
スタート/ストップスイッチ使用時
布はしまで来たら、スタート/ストップスイッチをもう一度押してミシンを止めます。

ゆっくりすすむスイッチ使用時
布はしに近づいたら、ゆっくりすすむスイッチを押して、スピードを落として縫い、縫い終わりでスイッチをはなすと、ミシンは止まります。

(パッチワークなどのカーブ縫いなど、丁寧な裁縫に便利です。)

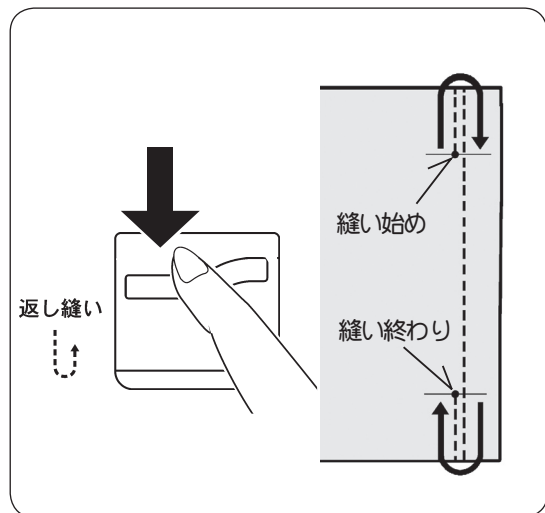
⑦ 縫い終わったら、針と押えを上げ、布地をうしろへ引き出し、面板部の糸切りで糸を切ります。

縫い方向の変え方（布端から16m/mで縫う場合）



- ① 布の角が針板上の「転換位置」に来たらミシンを止めます。
- ② プーリーを手前にまわして針を布地に突き刺し、押えを上げます。
- ③ 布地をまわし、布の下端を16m/mの線に合わせます。
- ④ 押えを下げて再び縫い始めます。

返し縫い



縫い始めと縫い終わりに3～5針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

作動中に返し縫いレバーを押し下げますと、返し縫いができます。

縫いにくい布地の縫い方

● 薄物（レース布、薄物布）

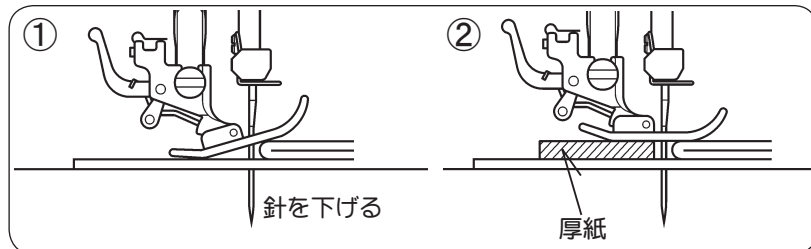
- ・レース布や特に薄い布地の場合、布の下に紙を敷きます。縫い終わったら、紙を取り除きます。
薄物縫いで目飛びしたり、しわがよる場合も紙を敷いてください。
- ・薄物の縫い始めは、上糸と下糸を少し引っ張りながら縫います。

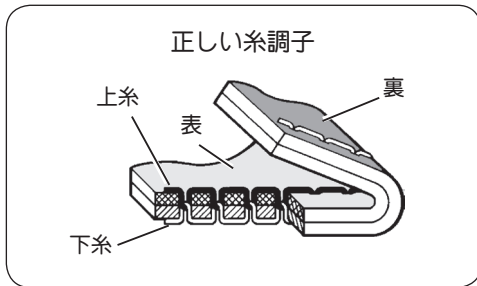
● 厚物（タオル布）

- タオル布を縫う際は、布の種類によって布送りが悪くなる場合があります。布の下に紙を敷き、太い針 #16 を使用し、ゆっくりとしたスピードで縫います。縫い終わったら、紙を取り除きます。
※ 縫い目長さダイヤルを「2」以上にしてください。

● 段縫い

- ・布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。
- ・図のように重なった厚地の布を縫う場合は、図①の状態でもシンを止め、針を下げます。図②の様に同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。布送りがスムーズになり、目飛びも防げます。





上糸調子の取り方

上糸と下糸が布の中間で、適当な張力をもってからみ合うのが正常な糸調子です。

通常の場合は、「標準」に合わせてください。

上糸が強い

布の表に下糸が出る

上糸調子を弱めます

上糸のつよさを

上糸が弱い

布の裏に上糸が出る

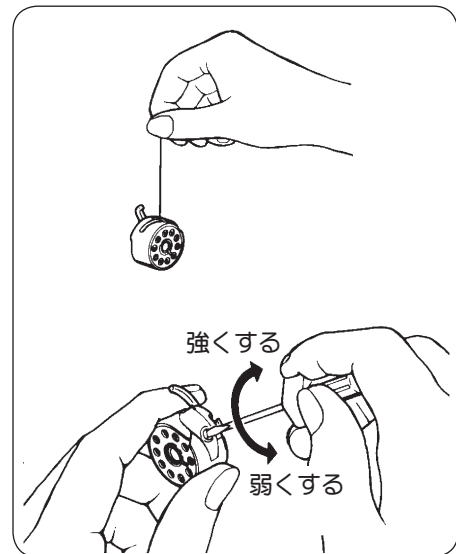
上糸調子を強めます

上糸のつよさを

下糸調子の取り方

通常ボビンケースの下糸調子は調整の必要はありませんが、糸調子が正常かどうか確認する場合は、調子バネの下に糸（綿50番）を通し、上下に軽く振って少しずつくりだすか試してください。

もし調整を必要とする場合は、調節ネジを少しずつ（1/4回転以内）まわしてください。



針と糸と布地

※ H A × 1 家庭用ミシン針を使用してください。

※ 下表を参考にして、布地に適した針と糸を使用してください。

※ 上糸と下糸は通常同じ種類のものを使います。

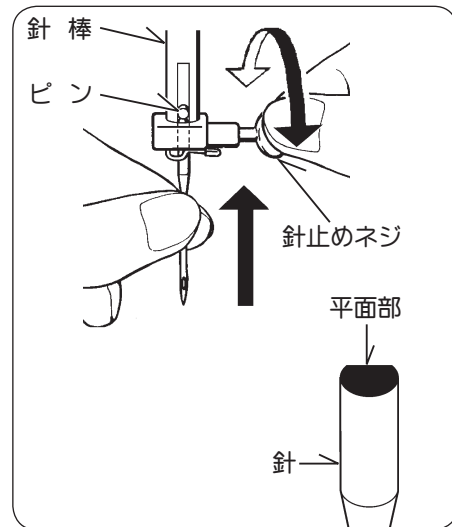
※ 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

※ 縫いにくい布地の縫い方は24ページを参照ください。

布 地	針	糸
薄地アシン 薄 絹 地	9番 ・ (細 い)	120番 ・ 100番
薄 物 布 地	11番 ・ (やや細い)	100番 ・ 80番
キャラコ 木 綿 地 サージ 伸 縮 布 地	14番 ・ (普 通)	60番 ・ 50番
毛 織 物 厚 地 類	16番 ・ (太 い)	40番 ・ 30番

※ 伸縮布地等、目とびしやすい布地にはニット針の使用をおすすめします。

針の取りかえ方



① 必ず電源スイッチを切ってください。

② プーリーを手前に回し、針棒を最上点に上げます。

③ 針止めネジを手またはネジ回しでゆるめ、針をはずします。

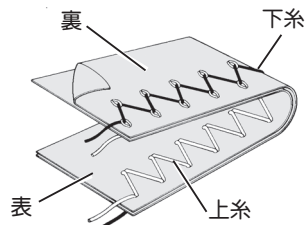
④ 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差しこみます。

⑤ 手またはネジ回しで針止めネジをかたくしめます。

ジグザグ縫い

ミシンをセットしましょう。


正しい糸調子

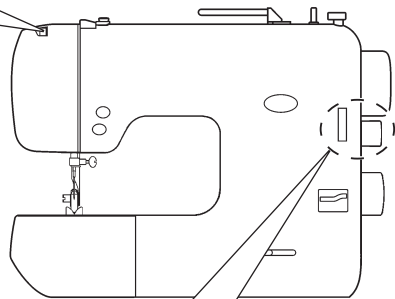


布の裏側に上糸が少し出るように、直線縫いのときより上糸調子をやや弱めにしてください。

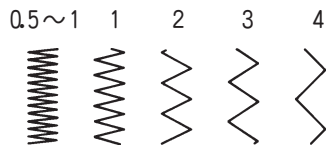
ジグザグ振り幅の選択



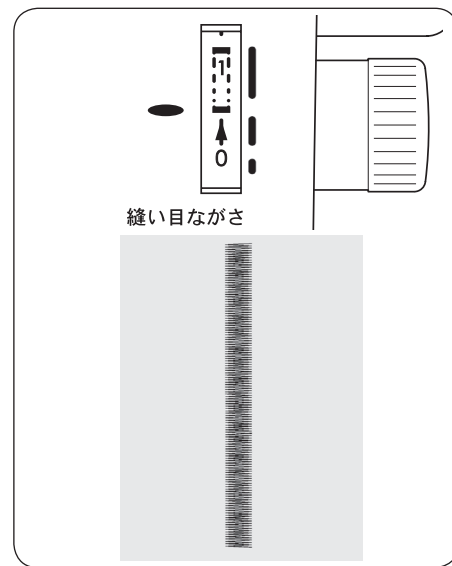
縫い模様選択ダイヤルを回して、縫い模様表示を  の間でお望みのジグザグの振り幅にセットします。



縫い目長さダイヤル

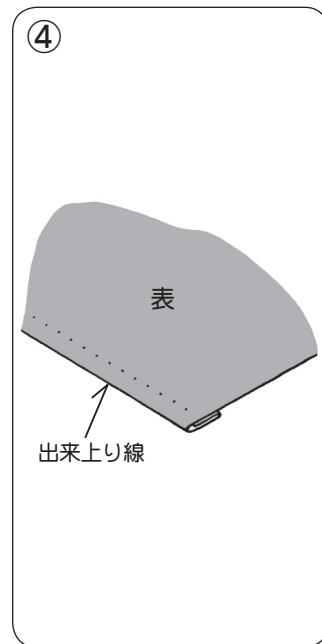
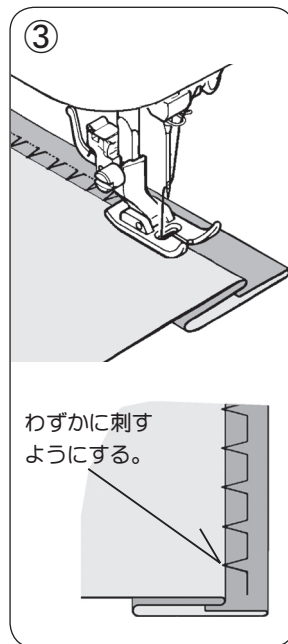
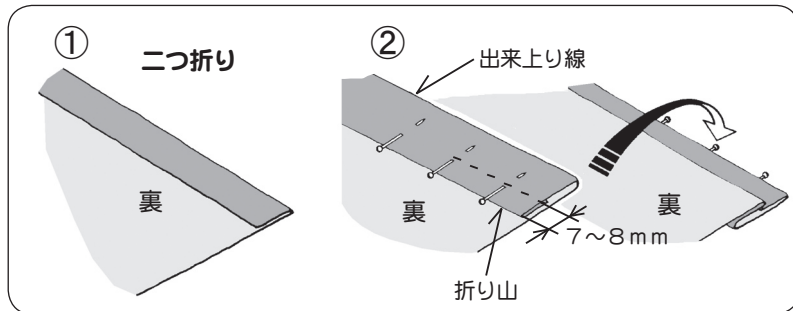
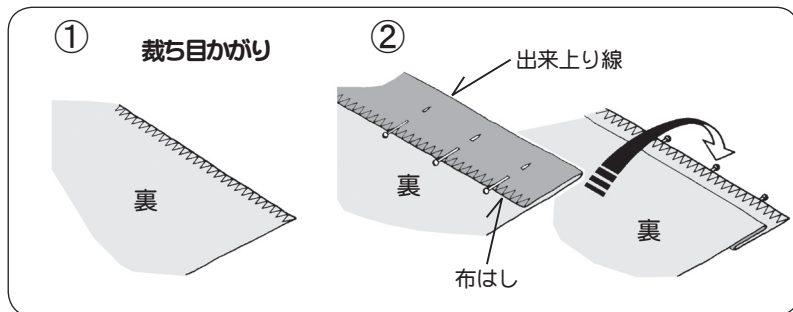


サテステッチ（密着縫い）



ジグザグ縫いで縫い目長さダイヤルを「0.5」ぐらいにセットすると、目のつまったきれいな縫い目ができます。

かくし縫い (ブラインドステッチ) ㄥ



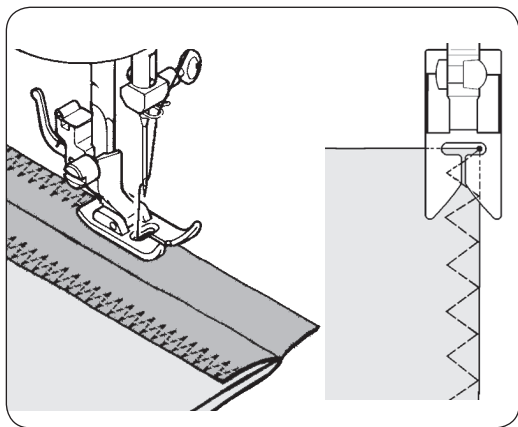
① 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。

② 出来上り線にそって布を折り、布はしましたは、折り山から約7~8mm入ったところからすそに向かって、図のように待ち針で止めます。
次に、待ち針を持って折り返します。

③ 針が左に落ちるとき、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。

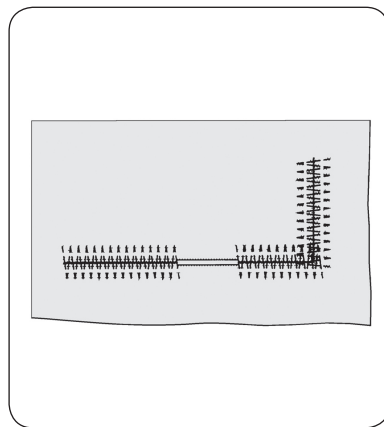
④ 布を表にひらくとできあがります。

点線ジグザグ縫い



裁ち目かがり

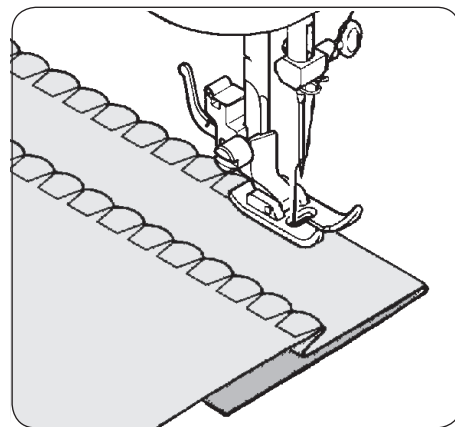
点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので a、丈夫に縫え、伸縮性があります。どのような種類の布の裁ち目かがりにも使えます。



つくろい縫い

布の裂け目をつくろうには、裂け目を押えの下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角を縫う場合は、両側から角の中心に向かって縫っていきます。裂け目の下に布を一枚あててやると丈夫につくろえます。

シェル縫い



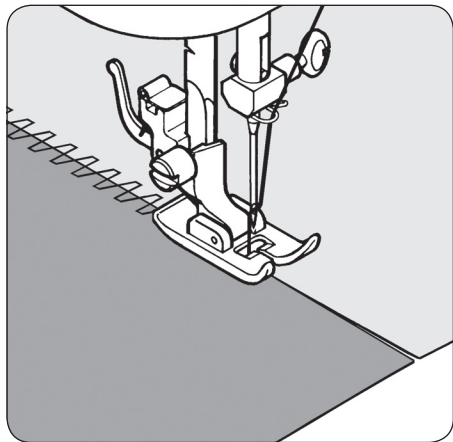
シェルステッチは、その名の通り貝殻を一直線に並べたような装飾模様として使えますので、ランジェリーやガウンの仕上げに最適です。

針が右側に落ちる時、布地にかからないようにして縫ってください。

縫う前に、はぎれを使ってテスト縫いされることをおすすめします。

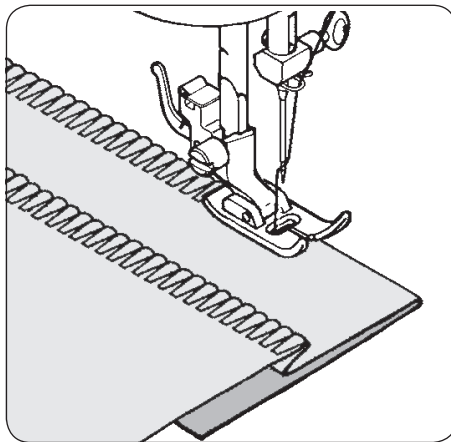
上糸の糸調子を通常の場合より少し強めにします。

つき合せ縫い



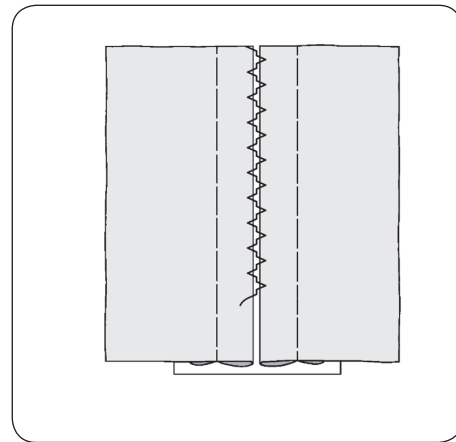
布と布をつき合せて縫います。
クッション、テーブルセンターなどを作るときに利用できます。

ランジェリー縫い



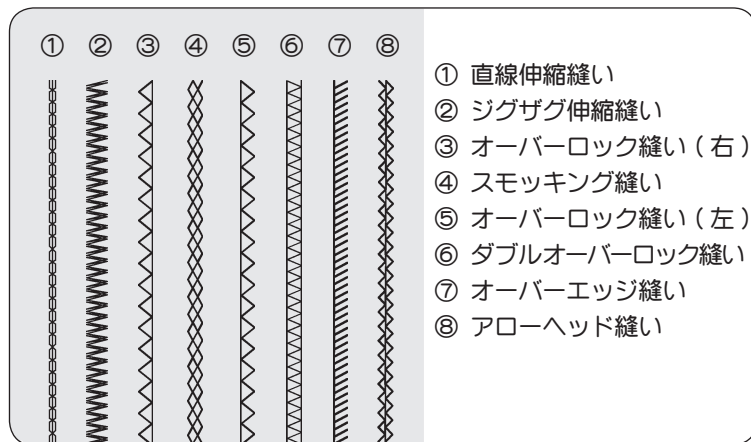
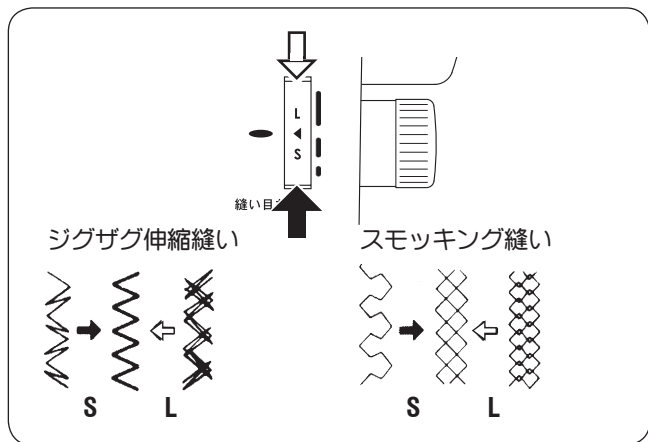
ほつれやすい布地を縫う場合に適します。
装飾模様として使えます。

ファゴット縫い



布と布の間を離れたままつなぎ合わせて縫います。
手芸品の飾り、室内装飾の小物作りに活用します。

2



縫い目長さの調整

縫い目送りダイヤルの ◀ 印の位置でバランスの取れた美しい伸縮縫いができます。

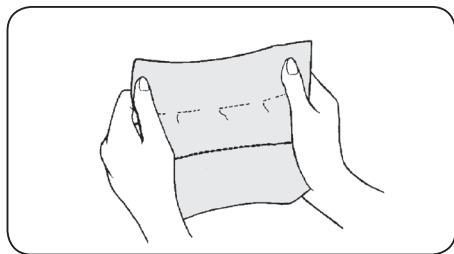
模様の形状の整え方

伸縮縫いは、使用される布地によって伸びたり縮んだりすることがありますのでL・Sの縫い目バランス調節位置で調整します。(伸びた場合は **S**、縮んだ場合は **L** に合わす。)

伸縮性の生地を縫う場合

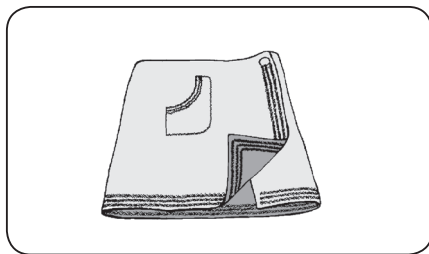
薄い伸縮性のある生地やニット地にストレッチステッチを縫う場合は、ニット専用針を使用されると目とびなどを防ぎ、好結果が得られます。

直線伸縮縫い



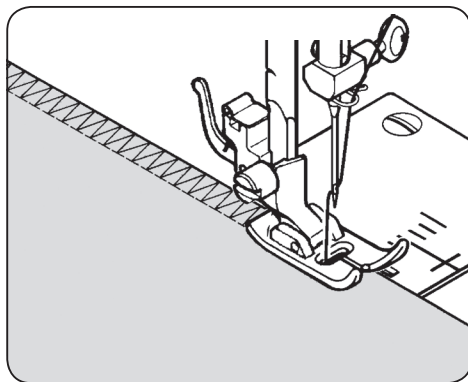
図のように布地をひっぱると、普通の縫いでは糸が切れますが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。

ジグザグ伸縮縫い



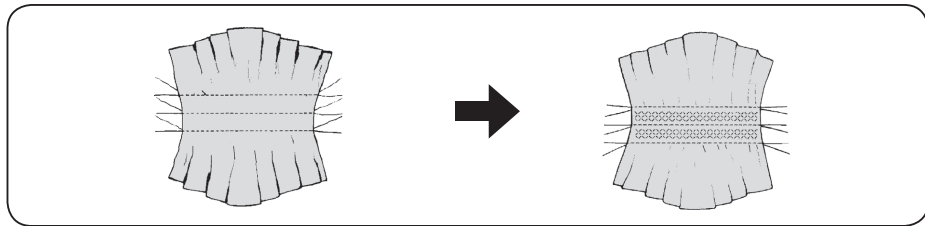
縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。

オーバーロック縫い



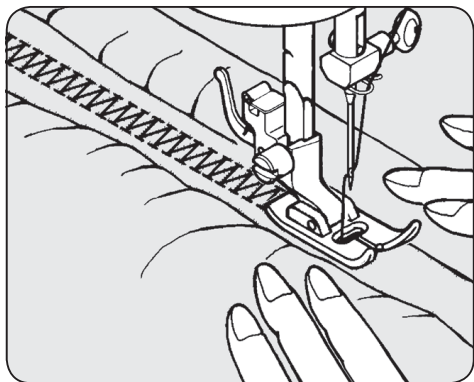
地縫いとかがり縫いを一度にし、又伸縮性があるので、ブラウス地や綿ジャージ、薄い生地縫いの縫い代の仕上げを始めとし、小物、手芸品などの飾り縫いに最適です。針は14番以上は使用しないでください。

スモッキング縫い



1. 上糸調子を弱くして、1センチ位の間隔を開けて直線縫いをしてください。
2. 下糸だけを引っ張ってギャザーを寄せ、上糸と下糸を結んでギャザーを固定します。
3. 直線縫いの間をスモッキング縫いします。直線縫いの糸をほどきます。ヨーク、ベビー服、幼児のドレス、ランジェリー、タック押えに最適です。

ダブルオーバーロック縫い

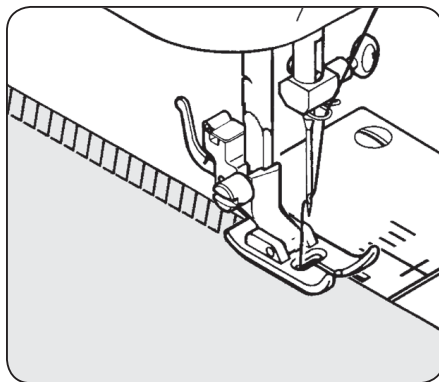


布地の裁ち目がほつれるのを防ぎます。ニット・ジャージーなどの伸縮性のある生地にも最適です。

平ゴム・毛糸などを縫い付ける場合もご利用ください。

針は14番以上は使用しないでください。

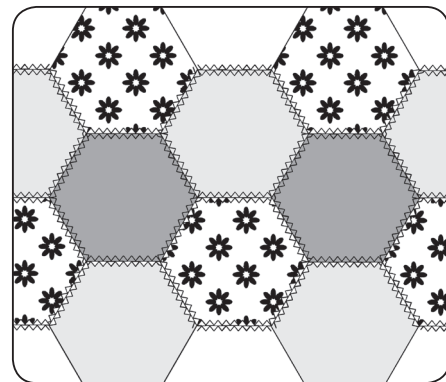
オーバーエッジ縫い



トリコットや柔らかいジャージのような伸縮性のある布地に最適です。

とりわけ伸縮する布地の縁をかがったりする時に便利です。

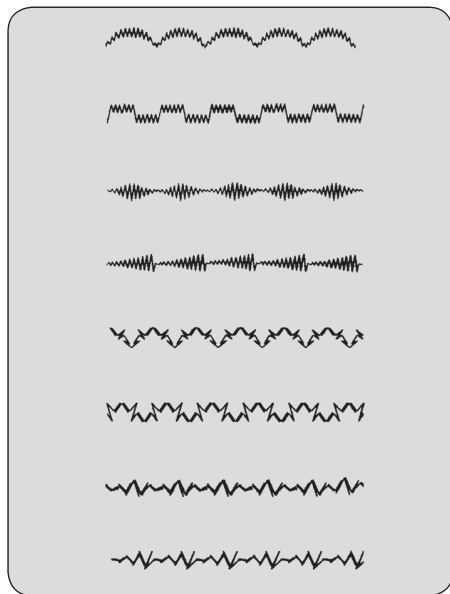
アローヘッド縫い



ジャージやニットのような伸縮性のある布地の、破れたり、すり切れた穴を補修するのに適しています。

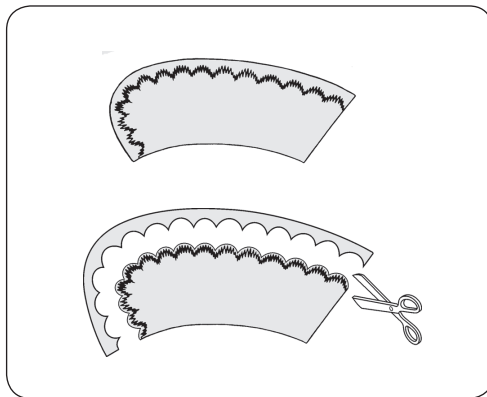
ともぎれを穴の上当てて、きれの端を押え金の中心に置いてつくろいます。縫い終わったら布を裏返して、縫い目の近くから破れた部分を切り取ります。

飾り縫いとしてもお使いになれます。



- ※ 使用される布地の端切れで試し縫いをされることをおすすめします。
- ※ 縫い途中に糸がなくなることを避けるためにボビンと糸ごまに十分な糸があることを確認してから縫い始めてください。
- ※ 上糸調子をやや弱めにセットしてください。

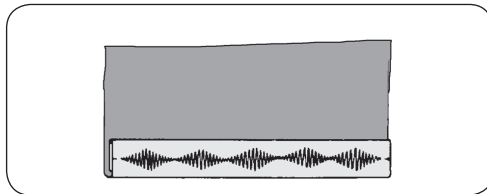
スカラップ縫い }



婦人服や子供服のそでやえり等の縁飾りとして、また端の始末などに利用できます。

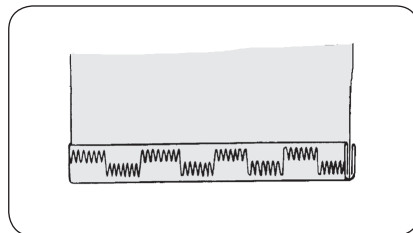
端の始末をする場合は、布端をこの模様で縫った後、模様に沿って布地を切り取ります。この際縫目の糸を切らないように注意します。

ダイヤモンド縫い ◆



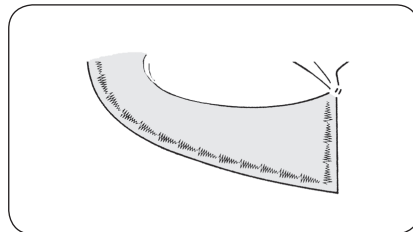
縁を折ってこの模様で縁の始末をします。

ドミノ縫い }



バイアステープを使い縁を折り返します。その上からドミノ模様で仕上げます。

アローヘッド縫い ▲

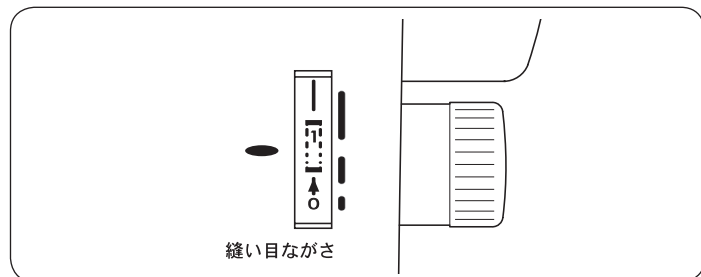


飾り縫いとして使われるほか、ほつれやすい箇所を補強するための装飾的な三角形の止め（三つ止め）として使われます。特にポケットの両端などに装飾的に使われます。

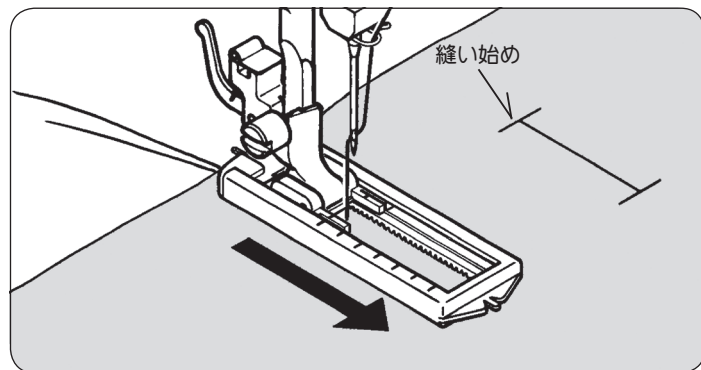
ボタンホール（ボタン穴かがり）

1 ⇒ 2 ⇒ 3 ⇒ 4 ⇒ 5

縫い始めのセット



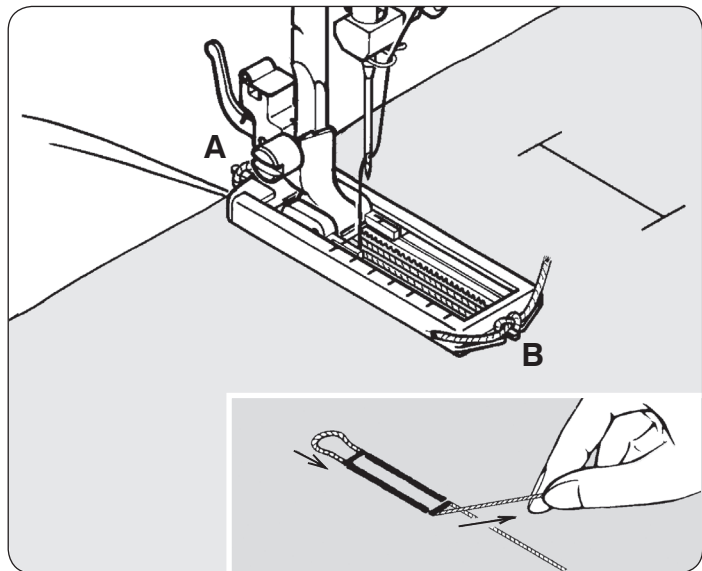
- ボタンホール押えをセットし（P. 37 押えの取りかえ方参照）、押えを手前にいっぱいにつっぱり出し、縫い始めの位置に合わせて押えを下げます。
- 伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を張ってください。
- 使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。



縫い方

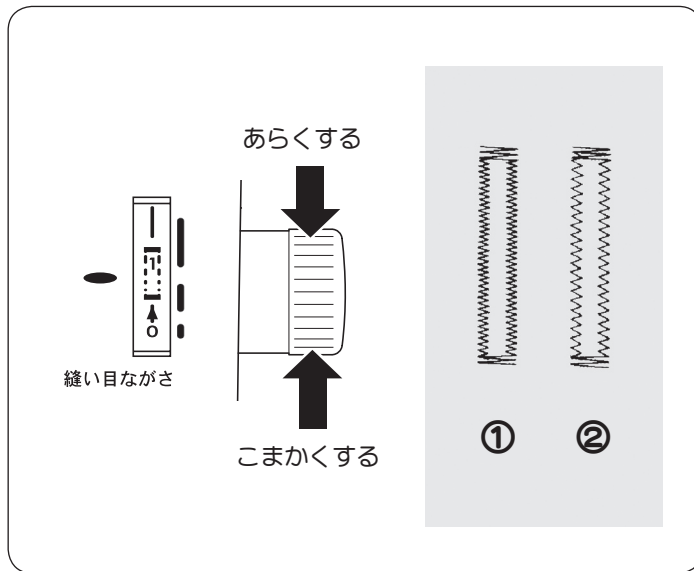
1 3		左右に4 ~ 5針縫ってください。
2		矢印の方向へ必要な長さだけ縫ってください。
1 3		左右に4 ~ 5針縫ってください。
4		自動的に直線縫いでバック縫いしますので、縫い始めの線まで縫ってください。
5		矢印の方向へ必要な長さだけ縫ってください。 厚い布地の場合は、ステップ②、⑤をもう一回繰り返すとさらに美しくしっかり出来上がります。
		縫い終わったらシームリッパーで中央の布地を切り開きます。その際縫い糸を切らないように注意してください。

芯糸入りボタンホール



- 芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。
- 芯糸をボタンホール押えのうしろの突起(A)に引っかけて、押えの下を通して前の突起(B)に結び付けます。このまま押えを取りつけて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。
- 縫い終わったら芯糸を押えからはずし、糸の端を引いてたるみをなくし、余分の糸を切り取ります。

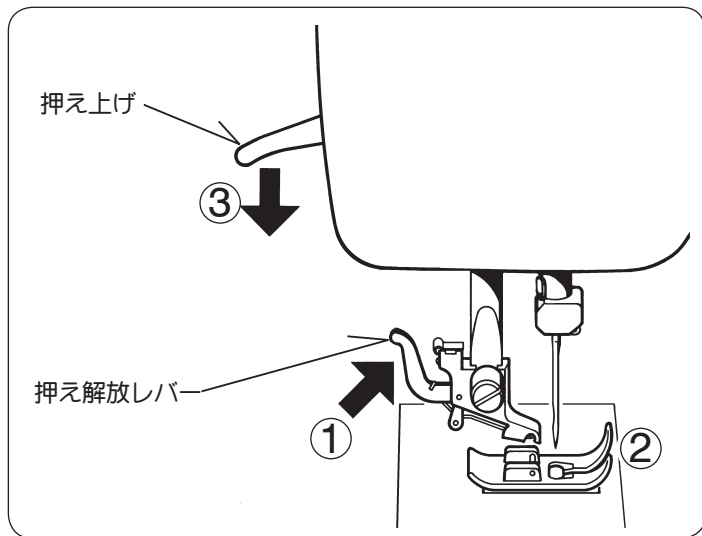
ボタンホールの縫い目長さ調整



使用する布地の種類や厚さによって、縫い目のあらかさを調整します。

- ①縫い目をこまかくするには、ダイヤルを“0”の方へ回します。
- ②あらくするには、“1”の方へ回します。

押えの取りかえ方



注意

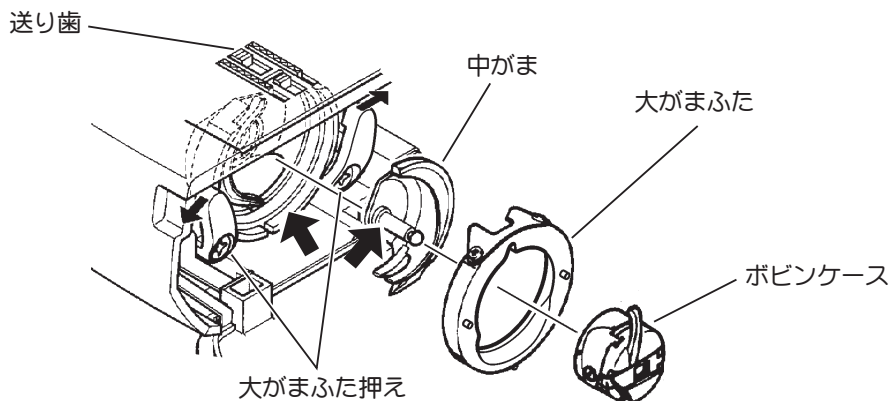
押えの取りかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

押えと針を上げます。

- ① 押え解放レバーを矢印の方向へ押すと、押えがはずれます。
- ② 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
- ③ 押え上げを下げると押えがセットされます。入りにくい時は、押え解放レバーを押すと入ります。

注意 安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。

かまの掃除



針を最上点に上げます。補助テーブルをはずし、かまカバーをあけます。

- ① ボビンケースをかまからはずします。
- ② 大がまふた押えを左右に開きます。
- ③ 大がまふたと中がまをはずします。
- ④ 送り歯やかまのまわりをブラシで掃除してください。
ミシン油を矢印部分に1~2滴注油しておいてください。
(注) 注油が多すぎると糸からみの原因となります。
- ⑤ 掃除が終わったら、はずし方と逆の順序でセットし、大がまふた押えが「カチッ」と音がするまで、完全にもどしてください。

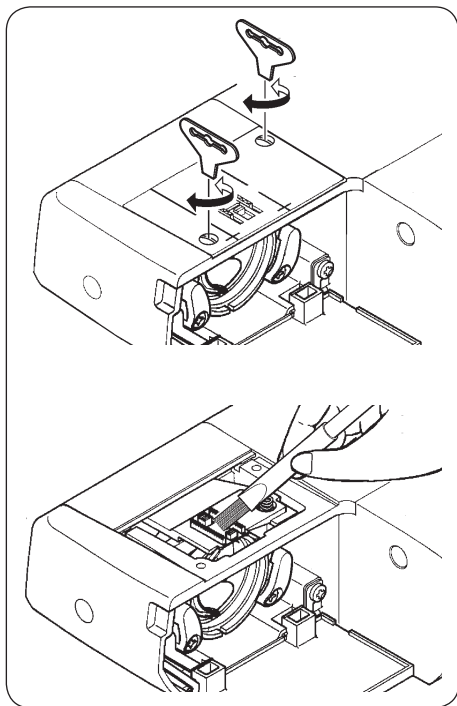
かまに糸がからんだ場合は、次の順序で行ってください。

- ① 大がまふたを外します。
- ② ボビンケース・中がまに巻付いた糸を「ハサミ」等で取り除きます。
- ③ 大がまの内側に糸が残っていないかを確認します。
- ④ 針を最上点に上げ、針が曲がっていないかを確認します。
(曲がっている場合は新しい針に交換してください)
- ⑤ 終わりましたら、掃除時のはずし方と逆の順序でセットします。

2

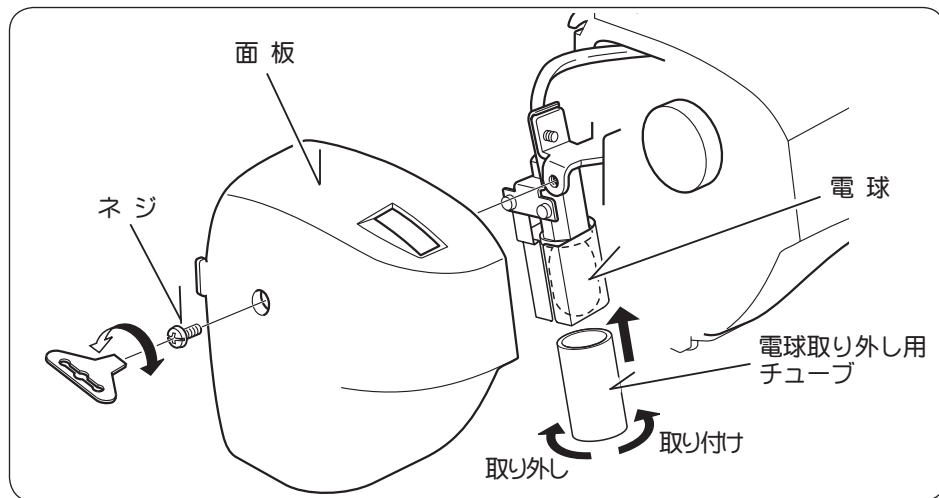
3

送り歯の掃除



針板を取りはずし、送り歯の周辺の糸くずなどを取り除きます。


電球の取りかえ



- ①電源プラグを電源から抜いてください。
- ②ネジを外し、面版を取り外します。
* 面版部分のネジを取り外す場合、付属の「針板用ネジ回し」又は、お手持ちのドライバーをご使用ください。
- ③電球取り外し用チューブで電球を上を押えながら左に回して取り外します。
電球取り外し用チューブで新しい電球（110V、15Wネジ込み式）を右に回して取り付けます。
④ 15W以上の電球は使用しないでください。
- ④面版を元の位置に取り付けます。

故障かな…と思ったら

次の項目をお調べのうえ、それでも直らない場合は、お買い上げ店または、当社サービスセンターにご相談ください。

こんな時には	原因	対処	参照ページ
糸切れお知らせランプが点滅する 	途中で上糸がなくなったとき。	残りの上糸を引き抜き、再度上糸をかけます。	17
	途中で上糸が切れたとき。	残りの上糸を引き抜き、再度上糸をかけます。	17
	自動停止装置が働いたとき。		6
ミシンが回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押しします。	15
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	11
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	11
	スタートスイッチを連続して押している。	1秒ほどスイッチを押す間隔をあけてください。	—
	上糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	17
	上糸がかかっている。	上糸をかけます。	17
回転が重い 音が高い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	38
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	26
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	—
	縫い目長さダイヤルが“0”の位置にある。	ダイヤルを“1～4”に合わせます。	20
	厚物縫いの場合		24
縫い目がとぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	26
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	26
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくつけ直します。	26
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	25
	上糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	17
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	38
	縫いにくい布地の場合		24

3

4

こんな時には	原因	対処	参照ページ
針が折れる	無理に布を引っぱった。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	26
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくセットし直します。	26
	押えが正しく取り付けられていない。	押え止めネジを締め直します。	—
	段縫いの場合		24
糸が布と針板の間でだんごになる	縫い始めに上糸と下糸を向こう側に引き出していない。	常に両糸をそろえて押えの下から向う側へ10cmほど引き出します。	19
上糸が切れる	上糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	17
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	25
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	26
	針が曲がっている。	新しい針と取り換えます。	26
下糸が切れる	ボビンケースの通し方が間違っている。	正しくセットし直します。	16
	糸くずがボビンケースやかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	38
縫い物に しわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	25
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	26
	薄物に対して縫い目が大きい。	縫い目を小さくします。	—
	薄物縫いの場合		24
糸通しカギが針穴に入らない	カギが曲がっている。	カギが針穴に通るようカギを曲げて調整します。	18

こんな時には	原因	対処	参照 ページ
かまに 上糸・下糸が からまる	上糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	17
	押えを下ろしていない。	押えを下げます。	—
	上糸調子が弱すぎる。	上糸調子を強くします。	25
	薄物縫いの場合		24
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	26
	大がまふた押えをきちんと閉めていない。	正しくセットします。	38
	ボビンケースの糸の通し方が間違っている。	正しくセットし直します。	16
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	38
	ボビンケース、大がまふた、中がまをはずして、からんだ糸を取り除きます。	38	



株式会社ジャガーインターナショナルコーポレーション

〒570-0011 大阪府守口市金田町2丁目55番32号

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-00-1137

つながらない場合は 電話 06-6900-1963

又は FAX 06-6902-0433